

資源評価調査委託事業
スルメイカ漁場一斉調査（要約）

今村 豊

目 的

太平洋海域におけるイカ類資源の有効利用、イカ類漁業の操業の効率化と経営安定に寄与するため、スルメイカの漁況予報に必要な分布・回遊、成長・成熟および海洋環境などに関する資料を収集する。

材料と方法

6月と8月に本県東方の太平洋海域において、下記調査を行った。

1. 第一次調査

- (1) 期 間：平成27年6月2日から6月8日（試験船・開運丸）
- (2) 調査項目：太平洋沖合海域35地点について、seabird社製CTD・911plusを使用して表層から最深500mまでの水温と塩分を測定し、平年値と比較すると共に、14地点において2連式5台の自動イカ釣り機により釣獲されたイカ類について種毎に全尾数を計数し、そのうち最大100個体について外套長を測定した。

2. 第二次調査

- (1) 期 間：平成27年8月27日から8月31日（試験船・開運丸）
- (2) 調査項目：太平洋沖合海域32地点について、seabird社製CTD・911plusを使用して表層から最深500mまでの水温と塩分を測定し、平年値と比較すると共に、14地点において2連式5台の自動イカ釣り機により釣獲されたイカ類について種毎に全尾数を計数し、そのうち最大100個体について外套長を測定した。なお、本調査は、北海道沖の太平洋沿岸のイカ類の漁海況予報を目的に、北海道区水産研究所と北海道と東北にある4道県が分担して実施した。

結 果

1. 第一次調査

津軽暖流の水温は、0m層が「平年並み」、50m層、100m層が「やや高い」、水塊深度は「平年並み」、東方への張り出しが「やや弱い」という結果であった。

また、14地点中1地点のみでスルメイカが漁獲され、スルメイカの有漁率は7.1%であった。漁獲されたスルメイカは1尾のみで、外套長は15cm、1台（2ライン）・1時間当たりのCPUEは0.10であった。

2. 第二次調査

津軽暖流の水温は、0m層、50m層が「平年並み」、100m層が「やや高い」、水塊深度は「平年並み」、東方への張り出しが「平年並み」という結果であった。

8地点中7地点でイカ類が漁獲された。8地点中3地点でスルメイカ、6地点でアカイカが漁獲され、スルメイカの有漁率は37.5%、アカイカの有漁率は75.0%であった。漁獲されたスルメイカの外套長は21cmから24cmで、有漁地点の漁獲尾数は1尾から2尾、1台（2ライン）・1時間当たりのCPUEは0.10から0.20であった。また、アカイカの外套長は17cmから28cmで、有漁地点の漁獲尾数は2尾から17尾、1台（2ライン）・1時間当たりのCPUEは0.20から1.70であった。

発表誌：平成27年度イカ類漁場開発調査資料第41号及び外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する基礎資料集 平成28年6月